

### 資料室だより 3 (1993/12/6)

当資料室では、このたびバンショワの宗教曲全集 "The sacred music of Gilles Binchois" (Oxford University Press, c1992) を購入しました。

ジル・バンショワ Gilles Binchois (c1400-1460) はデュファイと並び称される 15 世紀前半、いわゆるブルゴーニュ楽派の代表的な作曲家です。作品全体のなかで宗教曲の占める割合は大きいのですが、W.Reim の校訂になる "Die Chansons von Gilles Binchois" (Musikalische Denkmäler, II 1957) という現代譜により、世俗曲のほうが親しまれてきた感があります。これまでの宗教曲エディションには J.Marix の Les musiciens de la Cour de Bourgogne (L'Oiseau-Lyre, 1937) や A.Parris の 1965 年の学位論文 "The sacred works of Gilles Binchois" がありますが、全宗教作品を網羅し、校訂報告を加えたエディションはこれが初めてではないでしょうか。

現存する宗教曲のうち約半数はミサ楽章です。15 世紀の一般的傾向としては、キリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス、アニュス・デイのミサ通常文を同じモチーフで統一する循環ミサとして作曲することが好まれていましたが、バンショワには 5 楽章が通作されたミサというものはありません。グローリアとクレドのセットが 3 曲、サンクトゥスとアニュス・デイのセットが 5 曲あるのみで、これらもテノールの旋律や冒頭モチーフで関連づけることはできません。Feininger や Parris が個々のミサに関連付けようと試みていますが、同時代のデュファイ、ダンスタブル、パウアーのような首尾一貫性はみられません。時代の傾向に反した典礼作品を残しているという点で興味深いものがあります。

その他にはマニフィカート、アンティフォナ、モテットが収録されています。非常に見やすいエディションで、詳細な校訂報告もついておりますので、演奏に、研究にお役立てください。

(杉本ゆり 記)